

## 1 評価

教育、研究、社会貢献・地域連携、グローバル化への対応、大学運営それぞれの分野において実績を上げており、一部課題はあるが、全体として概ね順調に業務が遂行されていると評価する。

## 2 各委員からの主な意見等

### (1) 教育

教員養成改革を教員養成3キャンパス（札幌校、旭川校、釧路校）が一体となって推進するため、「教員養成改革協議会」を設置し、理論と実践の往還を重視したカリキュラムの構築・教育課程の見直しを実施するなど、以下2項の実績を上げている。

- 外部委員会及び学生評価委員会の意見及び評価を踏まえ、教員養成3キャンパス（札幌、旭川、釧路）において開設する教員養成コアカリキュラム科目に係る授業科目名・単位数・履修方法の統一などの改定を行うこととして、教員養成として共通すべき事項と同3キャンパスの特色から必要となる事項を明確にして、実践的教員養成の質の向上に努めていることは評価できる。
- アクティブ・ラーニングの観点を取り入れ、教育実習等で明らかになった授業実践上の課題等の解決を目指す授業である「学校臨床研究」を平成29年度後期から実施していることは評価できる。
- 学生の自主的・共同的な学びの場であるラーニング・コモンズの設置や、経済的困窮度の高い学生への授業料免除制度の見直し等、学生の修学支援の充実を図る方策を実施する業績を上げており、今後更なる学生支援策の強化を期待したい。
- 教員への志望意欲と学力を備えた入学者を確保するために、平成30年度から新たに教員養成特別入試を導入するなど、教員養成課程の入試改革について業績を上げているが、今後、高大接続の観点等を踏まえ、北海道教育大学の教育理念・目標に基づき、求める学生の資質をさらに明確にし、各種入試制度についても、選抜目的を最大限達成できるよう更に改革を行うとともに、改革の方向性について戦略的な広報を推進していく等の取組を期待したい。

- 優秀な教員及び地域活性化を推進する人材を輩出するため、全学の一体感を醸成し、教育課程の総合的な改革への取組に期待したい。
- 教員養成課程の教員就職率75%達成に向け、現状を検証するとともに、今後を見通して、教育課程の改善、大学教員による指導の徹底や附属学校園と連携した各種取組の推進など、全学的な対応施策に期待したい。
- 教職大学院における学びの成果が、北海道教育に活かされている実態を分析・評価するとともに、地域の学校から求められる内容を教育課程に取り入れていくなど、大学院改革を推し進め、更なる現職教員の入学者獲得に繋げていく等の取組を期待したい。
- 学生生活上の課題や心身の健康上の困難を抱えた学生に対する支援をより強化するため、組織的な支援体制を構築する等の取組を期待したい。

## (2) 研究

学長戦略経費を活用し、学校現場のニーズや地域の課題に対応した研究（へき地・小規模校教育、特別支援教育、食育、理数科教育、地域人材養成、子どもの体力向上等）を重点的に推進しており、以下3項の業績を上げている。

- 新たに、へき地・小規模校教育研究センターを設置することにより、全国に先駆けて、へき地・小規模校教育についての研究を推進し、学校現場や大学教育に活かすことで、理論と実践の往還を進める積極的な取組を推進していることは評価できる。
- 海外での調査や共同研究を活性化させるため、学長戦略経費の中に「教員海外研究支援経費」を新設し、国際的な研究を支援していることは評価できる。
- 国際地域学科（函館校）において、学科の特性を生かし、近隣の江差町、知内町、函館市と協働した地域人材養成プロジェクトを推進するなど、地域の課題解決に繋がる研究を推進していることは評価できる。
- 本学、愛知教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学の連携による研究プロジェクトの成果をまとめた複式学習指導手引書、小規模校教育に関するDVD教材、外国語の授業研究を推進するオンライン協働研究学習用プラットフォーム「C o l l a V O D」が現職教員研修等の機会に活用されていることは評価できるが、今後、研究プロジェクトの成果を還元する取組を更に推し進めるとともに、成果を継承していくために発展的な方針の策定等を期待したい。

- 戦略的に、外部資金の獲得や研究プロジェクトの重点化を図るなど、研究への支援体制の充実を図り、北海道における教員養成及び地域人材養成の拠点的な役割を果たす先導的で質の高い研究を更に推進していく等の取組を期待したい。

### (3) 社会貢献・地域連携

教育委員会や自治体、地域からのニーズに応えるため、新たに設置された大学戦略本部に「社会貢献・地域連携チーム」を設置すると共に、事務組織に「地域連携推進室」を設けるなど、社会貢献・地域連携を推進する体制を整備しており、以下5項の業績を上げている。

- 北海道教育委員会等と連携を図り、学生ボランティア派遣事業等の各種事業により、地域の実態を踏まえた社会貢献を実施していることは評価できる。
- 函館校において、新日本スーパーマーケット協会、北洋銀行の3者連携による地域の産業を担う人材の養成等を目的とした「寄付講座」(全10回)の開講を行っている。また、岩見沢校において、小中学生が音楽に触れることで豊かな感受性や創造性を育てる「ミュージックキャラバン」を釧路市及び池田町で開催するなど、地域に学びの場を提供していることは評価できる。
- 旭川校において、将来の租税教育を担う教員の養成を行うことを目的に、日本税理士連合会との連携による寄附講座を実施していることは評価できる。
- 北海道の教育の特色であるへき地・小規模校教育について、へき地校体験実習を実施し、学生130人をへき地・小規模校57校に派遣するとともに、実習の成果を発表する「へき地・小規模校教育フォーラム」に継続して取り組んでいることは評価できる。
- 本学、JAグループ北海道、(株)コンサドーレ、北海道教育委員会の4者連携による「食農フォーラム」を開催し、北海道の子どもの学力や体力の向上、食育の推進等に関する事業の成果を普及していることは評価できる。
- 全国各地で少子化が進み、小規模校教育が全国的な課題となっている中、新たに設置された「へき地・小規模校教育研究センター」を拠点として、他大学や、地域の諸機関と連携しつつ、学校教育や現職教員の実践的活動への支援を推進していくこと等の取組を期待したい。

- 新たに策定された「地域連携活動に関する基本方針」に基づき、キャンパスの特性を活かし、相互協力協定先や、各教育機関・団体と連携・協働した社会貢献の積極的な活動を推進していく等の取組を期待したい。

#### (4) グローバル化への対応

グローバル化への対応を推進するため、留学生の派遣・受入の拡充や、海外の協定先大学等と連携した教育プログラムを鋭意実施しており、以下4項の業績を上げている。

- 学生の英語力向上を図る取組として、教員養成課程の1年次学生全員を対象とした必修科目「外国語（英語）」において、TOEICの内容を取り入れるとともに、学年進行で通過目標スコアを設定するなど、グローバル化の推進に向け、授業内容の改善を図っていることは評価できる。
- 台北市立大学との間で新たに締結した覚書に基づき、「海外教育実習体験プログラム」を実施し、相互に学生の派遣・受入を行うなど、教育学部の特色を生かした取組を行っていることは評価できる。
- 大学教員や事務職員を対象とした海外英語研修を継続して実施しており、参加者からの報告により、研修内容の改善・充実を図っていることは評価できる。
- JICAと連携した途上国の教員及び行政官を対象とした研修や、現地でのワークショップによるフォローアップ事業など、教員養成大学に求められる国際貢献を継続的に実施していることは評価できる。
- 大学のグローバル化を推進するためには、留学生の派遣・受入の拡充や、海外の協定先大学等と連携した教育プログラムの実施に鋭意取り組むことが重要であり、大学戦略本部による効果的な戦略の企画立案に基づく各種施策を実施する等の取組を期待したい。
- 「グローバル教員養成プログラム」について、社会から求められる人材像に照らし、英語力の向上のみに偏ることなく、北海道教育大学としてのグローバル人材養成の目標を整理し、目指す人材像を明確にした上で、養成のための具体的な方策を検討していく等の取組を期待したい。また、より多くの学生がプログラムに参加することができるように、受講許可要件の見直しや、プログラムの改善・充実、及び受講した学生への支援体制の充実を図るなど、速やかな改善を期待したい。

## (5) 大学運営

教育、研究、社会貢献、グローバル化の目標達成に向けて、学長の意思決定を支援し、学長のリーダーシップが一層発揮できるよう、「大学戦略本部」を設置するなど、以下7項の業績を上げている。

- 学長が、各キャンパスの教職員との懇談の機会を持つ等、コミュニケーションを重視し、学内の意思疎通を図りながら協力体制を構築しつつ、各キャンパスの改革が円滑に推進されるよう条件整備に取り組んでいることは評価できる。
- 運営費交付金の削減に対応するため、寄附金獲得や管理費の節減に向けた各種取組を効果的に実施し、成果をあげていることは評価できる。
- 財務状況、運営状況等について、法令等に従い、業務を概ね適正に実施しており、中期目標達成に向けて、効果的かつ効率的に業務を進めていることは評価できる。
- 附属学校との連携について、校園長及び副校園長とキャンパス長との懇談、大学教員の附属学校を活用した研修、附属学校の校園長会、地区勉強会等の機会を通して、附属学校の改革を推進していることは評価できる。
- 研究推進、学生支援、人事労務など、専門的な資質を持った人材を育成・配置するなど、大学運営の高度化のため、事務局組織の強化を図っていることは評価できる。
- 「北海道教育大学キャンパスマスタープラン」に基づき、附属図書館札幌館の改修工事(ラーニングコモンズの整備)、札幌校講義棟トイレの改修工事等の施設整備を実施していることは評価できる。
- 男女共同参画について、新任女性教員スタート支援経費や女性教員採用促進経費の配分、女性教員を対象とした研究助成の配分による研究支援を行うなど、環境整備を実施していることは評価できる。
- 大学運営を強化するためには、少子化やグローバル化等、大学を取り巻く急速な社会情勢の変化に対応し、IRによる意思決定の根拠となるデータを十分に検証・活用し、中・長期的な視点で大学戦略を立案し、全学を取りまとめ、効果的に業務を遂行していく等の取組を期待したい。
- 教職員の資質能力向上を図るため、職員一人ひとりの能力と資質を引き出し、最大限に発揮できるように、各種研修機会の充実等を推進していくこと等の取組を期待したい。

